

委員会行政視察報告書

令和6年6月4日提出

井原市議会議長 三宅文雄 様

報告者 広聴広報委員会

委員長	西村 慎次郎
副委員長	多賀 信 祥
委員	沖 久 教 人
委員	柳 原 英 子
委員	山 下 憲 雄
委員	坊 野 公 治
委員	西 田 久 志
委員	宮 地 俊 則

期 間	令和6年5月14日（火）～令和6年5月15日（水）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	兵庫県西脇市議会 吉井敏恭広聴広報委員長（副議長）、高瀬弘之広聴広報副委員長 村岡栄紀議員、議会事務局：井口佑里子書記 京都府南丹市議会 若井睦巳広報公聴委員長、塩貝孝之広報広聴副委員長、河野啓介広報広聴 副委員長、下間康広議員、議会事務局：吉田伸一次長、大嶋友子書記 兵庫県朝来市議会 森田龍司議長、加藤貴之広報広聴委員長、関綾乃広報広聴委員、西本英輔 議員、日下茂議員、湊本稔議員、議会事務局：竹村係長
出張者氏名	西村慎次郎、多賀信祥、沖久教人、柳原英子、山下憲雄、坊野公治、西田久志、 宮地俊則、谷井一裕（議会事務局）
調査項目	兵庫県西脇市 「課題懇談会」について 京都府南丹市 「出前でおしゃべり青空議会」について 兵庫県朝来市 「次世代を担う高校生の主権者教育」について
(概要)	
別紙のとおり	
(所感)	
別紙のとおり	

1. 報告書は、視察・研修終了後1カ月以内に提出してください。
2. 概要、所感については、別紙を添付してください。
3. 所感には、1行目の右端に委員名を記載してください。

★視察内容★

○兵庫県西脇市

【市政概要】人口：37,945人(R6.5.1)、面積：132.44km²

【調査事項】課題懇談会について

【対応者】(議会：広聴広報委員会)

吉井敏恭委員長(副議長) 高瀬弘之副委員長、村岡栄紀
(事務局)

井口佑里子書記

1. 課題懇談会について

- ・定義：市内で活動する市民団体、市民グループと各委員会が課題やテーマを決めて意見交換を行う取組
- ・対象：市民団体(公的団体、任意団体は問わない)
- ・方法：市民団体からの申し込み、または、委員会から団体への申し入れ
- ・対応：常任委員会
- ・報告：終了後、所管の委員会で報告書を作成し、議員協議会(全協)で報告
- ・公表：報告書をホームページ及び議会だよりで公表
※重要なものは市長へ送付
- ・実績：H25：1回、H26：1回、H27：0回、H28：4回、H29：0回
H30：5回、H31：1回、R1：2回、R2：8回、R3：1回、R4：3回
R5：1回、R6：2回 計29回(過去11年間)

2. その他の広聴活動について

(1) 議会報告会～議員と語ろう会～について

- ・井原市議会の「市民の声を聴く会」と同様の事業
- ・開催状況

平成22年～平成26年	市内8地区で開催
平成27年～令和4年	対象地区を細分化し、町内会、自治会を対象に計80か所で開催し、2年間で80か所を回るようスケジューリング
令和5年～	対象に各種団体を追加(女性会、PTA等)し、テーマを設けて課題懇談会を実施 通年では、20自治会と各種団体を対象に開催

- ・運営状況

- 3名5班体制で実施

- 2部構成（1部：定例会の報告、2部：テーマを設定した意見交換）

- 意見交換は3グループのワークショップ形式を採用し、各グループで意見を発表し情報共有を行う。

- ・政策提言まで

- 意見や提案は各班において精査し、所管の常任委員会へ振り分け、常任委員会において今後取り組んでいくか協議する

- ・これまでの実績

- 学童保育の預かり時間前倒し

- 福祉タクシー券

- バス料金の値下げ

- ・開催後の対応

- 簡単な議事録を作成し、参加者へ結果報告を行う

- 議会だよりにより開催結果を公表

（2）高校生版議会報告会について

- ・目的

- 主権者教育の一環として平成29年から実施

- ・運営方法

- 議員がファシリテータとなりワークショップを実施し、各グループの検討内容を生徒代表者が報告する。

- ・今後の取り組み

- 令和6年度から高校生議会を実施予定

- 役割は、議員を高校生、執行部を議員とし、すり合わせのワークショップを2回実施予定

3. その他

（1）議会だよりモニターについて

- ・目的

- 委員を公募し、議会だよりに対する意見等を聴取する。

- ・運営状況

- 8名を採用し、議会だよりに対するアンケートを実施

- 2,000円の商品券を謝礼として贈呈

- ・これまでの実績

表紙写真を市広報と差別化するため、子どもなどは採用せず議員や会議風景をメインとした

文字数を減らし、読みやすく配慮

暖色の採用を徹底

(2) その他

- ・議会だよりの一般質問のコーナーにおける議員の写真は、当該定例会の度に事務局職員が議場で撮影した写真を採用
- ・委員会も生中継と録画放送を実施
- ・常任委員会と広聴広報委員会は2年ごとに総入れ替え



○兵庫県南丹市

【市政概要】人口：29,816人(R6.5.1)、面積：616.40km²

【調査項目】出前でおしゃべり青空議会について

【対応者】(議会：広聴広報委員会)

若井睦巳委員長、塩貝孝之副委員長、河野啓介副委員長、下間康広
(事務局)

吉田伸一次長、大嶋友子書記

1. 出前でおしゃべり青空議会について

- ・定義：市内で開催される各種イベントに議会ブースを設け、来場者の皆さまの市政に対するご意見やご相談をお聞きする取組
- ・経緯：議会報告会を開催していたが参加者が少なかったことから実施
- ・対象：イベント来場者
- ・テーマ：設定なし。議会を身近に感じてもらうきっかけづくりの場として捉え、敷居を低くしている
- ・対応：参加可能な全議員で対応し、時間で分担(常任委員会委員を均等に配置)
- ・周知：市議会ホームページ、Facebook、新聞、CATV等
- ・運営：合併前の旧町単位で開催されるイベントでブースを設けて実施
常にブースに3人議員がいるよう調整
各議員で呼び込みを実施するとともに、簡単なアンケートを配布し相談しやすい雰囲気になるよう努める
アンケート内容は年齢、居住地、議会だよりを見たか、議会の中継を見ているか、議会に興味があるか、市議会議員選挙に投票したか、直近の主要事業を1つ挙げご意見を伺う。
服装は自由
第4回目は、塗り絵コーナーを設けて子育て世代が来場しやすいよう変更
- ・取扱：寄せられた意見等は、うかがった議員がご意見ご相談シートへ相談内容を記入し、広聴部会で分類し、常任委員会へ情報共有
- ・実績：令和5年度から実施し、4回実施
- ・成果：相談をきっかけに意見書の提出ができた案件が1件
各地区開催により地域バランスの取れた意見聴取
議会に関心が低い層との交流が実現

開かれた議会の体現

2. その他の広聴活動について

(1) 学生との意見交換会

- ・開催：令和4年7月20日
- ・主催：広報広聴委員会
- ・対象：市内高校1校（参加8名）
- ・運営：生徒2名＋議員2名が一つの班を編成し、意見交換と議場での発表

(2) なんとん未来会議

- ・開催：令和5年3月11日
- ・主催：南丹市議会
- ・対象：16歳（高1）～22歳の市内在住・市内通勤通学者（参加25名）
- ・運営：3つのテーマごとに8班に分かれて意見交換と議場での発表



○兵庫県朝来市

【市政概要】人口：27,971人(R6.5.1)、面積：403.06km²

【調査事項】次世代を担う高校生の主権者教育について

【対応者】(議会：広聴広報委員会 他)

森田龍司議長、加藤貴之委員長、関綾乃、西本英輔、日下茂、
刈本稔
(事務局)
竹村係長

1. 次世代を担う高校生の主権者教育について

- ・定義：市民に開かれた議会、信頼される議会を目指す取り組みの一環として
次世代を担う高校生の政治や地方自治への意識醸成を行う取組
- ・経緯：令和3年8月に朝来市議会100回記念事業として初めて開催し、令和
4, 5, 6年度も継続的に開催
- ・対象：市内2高校(各校9名のうち、1人が議長、8人が質問者)
- ・方法：高校生：議員、議員：執行部役となり一般質問を実施
- ・主催：朝来市議会(市民と行政をつなぐ役割は議会が担うべきとの考え)
- ・広報：ケーブルテレビで生中継、インターネットにより録画配信
- ・公表：会議録を作成し、ホームページ及び議会だよりで公表
- ・運営：高校生が行う質問や提案に対し市議会議員が答弁を行う。
参加者の選出は学校長に一任。
高校生からの通告書を広聴広報委員会が議員に割り振り、議員が答弁
書を作成する。
事前学習会を開催し、高校生との意見交換を行う。
再質問は実施しない。
質問時間は1人6分間。(開催可能時間を生徒数で除した時間)
全議員が参加、来賓は市長・副市長・教育長。
閉会にあたり教育長、副議長が講評を行う。
- ・成果：高校生等医療費助成事業の対象者の拡充。
乳幼児等・こども医療費助成事業の所得制限の撤廃。
- ・その他：
高校側は、総合学習(地域探求)の一環として取り組んでいる。地域
コーディネータが指導している。
答弁内容は担当議員が責任をもって作成し、内容については、事前に

議会内で共有しない。

要望に応じて議会や行政の施策等について出前講座を実施。

高校生議会で出た意見は、一般質問や所管事務調査で取り上げる場合あり。

要望に応じて学校と庁舎間の送迎を実施。

参加者には1,000円分のクオカードを贈呈。



以上

(所感)

委員長 西 村 慎次郎

【全体】

広聴活動の先進地ということで、3市議会とも議員の熱量（議員力のすごさ）を感じました。

また、担当議員からの直接の説明をいただけたこともあり、テーマ以外の話もうかがうことができ、とても有意義な視察となりました。

【西脇市】

「課題懇談会について」をテーマに視察を行いました。

市内で活動する市民団体や市民グループと各委員会が課題やテーマを決めて意見交換を行う取り組みで、毎年数回実施されています。

その他、自治会単位で行う議会報告会や高校生をターゲットに行う高校生版議会報告会もされており、積極的な広聴活動を実施されていました。

井原市は、「市民の声を聴く会」と常任委員会が行う「市民と意見交換する場」は分けて管理されており、体系的にまとめて管理してはと思いました。

また、主権者教育も積極的に取り組んでいければと感じました。市内高校3校や中学校5校と実施に向けて調整してみてもと思います。

視察のテーマとは外れますが、広聴広報委員会メンバーは2年で全員入れ替わっているとのことで、これに伴い常任委員会も2年で入れ替わっていました。井原市の広聴広報委員会のメンバー構成の考え方も見直してもよいと感じました。

【南丹市】

「出前でおしゃべり青空議会について」をテーマに視察を行いました。

出前でおしゃべり青空議会は、細かなことは考えすぎず、やりながら課題解決をして発展してきているとのことで、まずは、やってみて市民がどういう反応を示すかで改善を繰り返す方法もありと感じました。

広報広聴委員会を広聴部会2名、広報部会8名に分けて活動をされているとのことでした。委員の負担軽減になるようであれば、こういう体制も考えてもよいと感じました。

【朝来市】

「次世代を担う高校生の主権者教育について」をテーマに視察を行いました。

開催のきっかけは、令和3年の朝来市議会100回記念事業での高校生議会であったようですが、そこから毎年開催されていました。

高校側の総合学習（地域探求）の場と議会側の広聴活動の場がうまくかみ合い、Win-Winの関係で取り組みができていました。

高校生議会の役割分担としては、議長、質問者は高校生、答弁者は議員ということで、驚いたのは、答弁する議員は質問ごとに担当議員が決められており、その答弁内容は担当議員が考えるとのことでした。

議員の資質向上につながるやり方だと感じました。井原市においては、すぐに同じように取り組めるかどうかはわかりませんが、高校生や中学生をターゲットとした広聴活動のしくみは考えていってもよいと感じました。

(所感)

副委員長 多 賀 信 祥

〈西脇市〉

実施している内容を聞いて、自治会に対しても毎年ではないので負担感も少なく参加しやすいのではないかと感じた。所管委員会からの開催申し込みも課題懇談会として取り扱っているので、井原市議会においても検討すればよいと感じた。(現状は、委員会の所管事務調査の一環) また、主権者教育の一環として高校生版議会報告会からスタートし、今後は高校生議会を実施予定であったり、議会だよりモニターの取組をされていたり、市民に身近に感じてもらえる取組を意欲的に行われており、参考にすべき点は多かった。

〈南丹市〉

過去に議会報告会を行っていたが、思うような成果がなかったため、この取組を始めたとのことであった。面談シートの作成・活用などさまざまな工夫をされていた。当初、市民からの声を思うように得られなかったため、アンケートの実施やぬり絵・折り紙を用いるなど、立ち寄ってもらえるような試行錯誤をくりかえされており、意欲的な取組姿勢は参考にしたい。この取組は、地域が偏らずにより多くの方に話を聞く機会となっていると感じた。井原市議会でもこの取組を参考に検討したいと感じた。

学生との意見交換会をきっかけにスタートした、なんたん未来会議の取組については、テーマの工夫が素晴らしく、良い取組だと思う。また、広報広聴委員会の中に広聴部会、広報部会があるとのことであったが、井原市議会においても、役割分担について検討していくべきだと感じた。

〈朝来市〉

議会カフェによる事前の取組や、会議の進め方に工夫を凝らされていて、高校生が得られるものは非常に多いと感じた。議会について知ってもらったり、政治に興味を持ってもらったりするなど、主権者教育に取り組むことから得られる効果は大きいと感じた

高校生の質問については、広聴活動の役割・位置づけとなっており、本会議・一般質問形式による発言は、地域探求の発表の場になっており、両者がそれぞれにこの取組に意義を持っていた。そして、生徒には議会・議員を身近に感じ、政治に興味を持ってもらう機会になっており、完成度の高い取り組みだと感じた。

朝来市議会ではあくまでも議員の責任で答弁するとのことであったが、議会として答弁する場合は、委員会として質問を受けて、委員会の統一見解として答弁するようにするべきだと感じた。

(所感)

委員 沖 久 教 人

<西脇市>

西脇市議会で取り組まれている課題懇談会について学ばせていただいた。市内で活動する市民団体、市民グループと各委員会が課題やテーマを決めて意見交換会が行われていた。過去 11 年間で合計 29 回実施されており、所管の委員会で報告書を作成し、全員協議会で報告された後、報告書をホームページ及び議会だよりで公表されていた。

議会報告会（議員と語ろう会）については、本市でも取り組んでいる「市民の声を聴く会」と同様の事業であったが、開催状況が本市に比べて大きく違っていた。3 名 5 班体制で実施されており、2 年間で 80 か所も回っておりより細かな対応が参考になった。本市で行われている手上げ方式による「市民の声を聴く会」をもっと市民に近い形での開催として検討すべきだと感じた。また、グループに分けてのワークショップ形式という形がよりリアルに市民の方の声が聞けるということも大いに参考にしていきたいと思います。

主権者教育の一環として平成 29 年から実施されている高校生版議会報告会についても学ぶ点が多くあった。議員がファシリテータとなりワークショップを実施し、各グループの検討内容を生徒代表者が報告する内容であったが、本市においても議員力向上のために執行部側からの見解を持つ機会も必要であると感じた。

<南丹市>

南丹市議会で取り組まれている出前でおしゃべり青空議会について学ばせていただいた。市内で開催される各種イベントに議会ブースを設け、来場者の方々から市政に対する意見や相談をお聞きする取組が実施されていた。特にテーマは設定されておらず、議会を身近に感じてもらうきっかけづくりの場として誰もが気軽に立ち寄ることができる場所となっていた。3 回の取組の反省から、より親近感を持てる場所にするために 4 回目の取組においては、塗り絵コーナーを設けて子育て世代が来場しやすいように工夫されていた。各地区で開催されていたため地域バランスもとれていたもので、本市においても手軽に実施できる取り組みであると感じた。議員がより身近な存在であるということ、気軽に何でも相談できる場所があるということで市民の幅広い層の方々の市政に対する関心度も増していくのではないかと感じた。

<朝来市>

朝来市議会で取り組まれている、次世代を担う高校生の主権者教育について学ばせていただいた。より開かれた議会、より信頼される議会を目指す取り組み

の一環として次世代を担う高校生の政治や地方自治への意識醸成を目的に実施されていた。市内の2高校の生徒が、議長と質問者となって、議員が執行部役となり一般質問を1人6分以内で実施されていた。答弁者となる議員が答弁書を作成する点については非常に興味を持つことができた。普段から議員が行っている一般質問において、執行部側からみることも議員力向上につながるのではないかと感じた。また、ケーブルテレビで生中継されていたりインターネットにより録画配信されることで高校生の意欲の増加にもつながっていると感じた。さらに、高校側においては、地域コーディネーターが総合学習（地域探求）の一環として常にサポートしているので、高校生たちにとっても自分たちが住む地域課題をより深く探求していく楽しさが郷土愛にもつながっていると感じた。本市においても、市内に県立高校、市立高校、私立高校があるため、このような取り組みを高校生同士が連携して行っていくことで他市にはない主権者教育が議会とともに広がっていくのではないかと感じた。

(所感)

委員 柳 原 英 子

〈西脇市〉

各団体や議員から出てきた課題に対し、テーマを決めて各地区長、3つの商店会などと懇談会を行われている。データ収集や、所管の委員会などでの議論をかさね、政策提言を行っている。

「議会と語ろう会」では、各自治会の負担感や出席者の偏りなどで、低迷している。これは井原市議会の市民の声を聴く会と同じような状態であると感じた。高校生版議会報告会から高校生議会へ発展して今年実施予定。市民の声をしっかりと聞く体制を考えられていると思う。議会だよりのモニター制度を導入されている。これは井原市もやってみるといいとおもう。

〈南丹市〉

議員を身近に感じることができ、若い人の参加ものぞめる。これは井原市でも導入できると考える。

〈朝来市〉

高校生議会を毎年実施。高校生からは、自分が抱えていた疑問を解決することができ、市民の一人として市の未来に関わることに貢献したい。の声が聞かれた。また、医療費助成の拡充などの政策につながった。主権者教育として効果的な取り組みだと思う。

かなりの準備が必要であり、また高校の取り組み方の在り方も重要となる。わが市においては、少しハードルが高いと感じる。

(所感)

委員 山下 憲 雄

〈西脇市〉

井原市で西脇市の課題懇親会を実行する際のポイントは、市民の期待やニーズを把握して計画を立てる必要がある。そのポイントは以下のことを重視すべきこと。

- ① 地域の団体や市民の協力を重視し意見交換の場を設けること。
- ② 具体的なテーマを明確に設定して参加者が事前に準備できるようにする。
- ③ 市民からの意見は政策提言として議会に反映できる体制を整えること。
- ④ 会議録の公開や報告会の開催など、市民との情報共有を高めて市民の関心をより引き出すこと。

※高校生議会報告会を井原市で実施する際のポイント

- ① 市議会の役割を学び理解を深める。
- ② 井原市の取り組みや地域の課題を議論する。
- ③ 高校生への期待や彼らが地域の貢献できることを探る。
- ④ 未来のまちづくりについて積極的に発言し提案する場を与える。
- ⑤ 高校生が主権者である自覚を持ってもらう。
- ⑥ このような取り組みから高校生は主権者であることを自覚して地域社会に積極的に関わってもらう。

〈南丹市〉

南丹市の「おしゃべり青空議会」を井原市で実行する場合には、

- ① 南丹市のように、市民が市政に持っている様々な意見や質問を直接議員と話すことができる気軽な場を提供していること。
- ② 特定の日に公共の場でイベントとして開催していて来場者が自由に参加できるようにしていること。
- ③ 寄せられた意見は議会の常任委員会で共有されて議会活動に反映している。
- ④ 議員は議会主催の事業と理解して個人的発言に制約は設けないこと。
こうしたことを参考にして「市民の声を聴く会」に代わる計画を検討してもいいのではないかと思う。

〈朝来市〉

朝来市で実施されている「次世代を担う高校生の主権者教育」は高校生が政治や選挙、地方自治への意識醸成を目的としている。

- ① ポイントは、県立高校 2 校に対して計画的に取り組めるように事前学習の機会を与えている。
- ② 事前学習では議会の仕組みや議員とのグループワークを通じて生徒たちは地域の課題について調査研究して質問を作成する。
- ③ 実際の議会と同じ様に一般質問を行い市政に対する意見を提案することができる。
- ④ 市政に活かされることがある。以上のことを、実際に井原市議会で行うには、井原の地域特性やニーズに合わせた企画を検討する必要がある。

(所感)

委員 坊 野 公 治

〈西脇市〉

議会報告会を平成 22 年から 26 年までは市内 8 か所で、平成 27 年からは更に細分化して、2 年間で 80 か所回っていることには、その労力に頭が下がる。政策提言までもって行って、実際に反映されている。井原市議会は各地区を回ることをほぼ休止しているが、必要であるのかと思わされた。

高校生版議会報告会は主権者教育の一環で行われている。井原市議会においても市立高校と行ったが 1 回で終わっているのも、今後高校の在り方が問われる中必要と考える。

議会だよりモニターに関しては、暖色を使わないと読まないなど、市民目線の意見があり、井原市議会でも検討すべきと考える。

〈京都府南丹市〉

出前でおしゃべり青空議会は、市内のイベントに議会が出向き意見交換や、アンケートを行っている。子育て世代を呼び込む努力もされている。イベントの内容にもよるが、本市でも駅前のイベントなどに参加して、意見交換会などを行っても集まらない、議会に関心のない世代と交流する機会を作れると考える。

学生との意見交換会では、議員 2 名+生徒 2 名で意見交換を行っている。少人数が壁を作らなくて良い。なんたん未来会議は 16 歳～22 歳の市内在住者、市内通勤通学者で意見交換を行っている。高校生だけでなく、大学生の世代まで広げることによって、社会人や市外に通学している学生の意見も聞くことが出来る。

〈兵庫県朝来市〉

高校生議会を市議会 100 回記念事業で始め、継続的に実施している。市内 2 校から 9 人ずつ参加し、議長も生徒が行っている。事前に質問を提出してもらい、議員が回答を考えるとのこと。議員と執行部とのすり合わせもないとことで、答弁も担当の議員個人に任されている。議員も事前準備がかなり必要となるので、議員にとっても勉強になると思う。事前学習会を行うとのことであるが、こちらがポイントになっているのではと考える。

今回視察した 3 か所すべてで高校生を中心とした若い世代との意見交換を行っている。普段議会と接することのない世代ではあるが、18 歳成人で選挙権も得ることから、主権者教育に力を入れている学校もある。少子化による人口減少問題が言われる中、未来を担う若者と井原市の将来を考える機会を作り、自分たちで井原市を創っていくという認識を持ってもらう事が、将来井原市に住んでもらうためにも必要であると認識させられた。

(所感)

委員 西 田 久 志

〈西脇市〉

議会日よりモニターを設けられていることは井の中の蛙にならず、貴重な意見を聞けると感じました。課題懇談会でも、平成25年から途切れる事無く継続されていることは素晴らしいと感じます。また、主権者教育の一環として高校生版議会報告会を実施され、そして、令和6年からは高校生議会を予定されている。執行部の席へ議員が座り。1問3分議員3分中継もあるという事でした。若い人たちが政治に触れ中身を知って行くということは非常に重要な事で、政治離れ特に投票率の低下が危惧される現在大切な事であります。

〈南丹市〉

市内で開催されるイベントに議会ブースを設け、議員と来場者が個別に対面して交流を図っておられる。1回目は15名、2回目は花火大会で3名、4回目以降はアンケートを実施し会話の糸口を見つけ、またぬり絵、折り紙コーナーを設置し子供連れの保護者と対話することができ参加人数やアンケートが増えていった。

意見書の提出や地域バランスの取れた意見徴収、議会に関心の薄い若年層との交流と次世代を担う新しい発想との出会い、開かれた議会の体感を感じられたとの事。

また、最初の学生との意見交換では議員は硬いイメージがあったが話すと実際は違った、情報をもっと発信してほしいなど得るものがあった、2回目では議員の仕事内容や、市民の為にたくさん考えてくれていることが分かった。また、南丹市の事がより好きになったなどの意見を聞くことができた。

これらの事を基に、受け身になるのではなく南丹市議会のようにいろんなイベントに積極的に参加することは大変重要な事だと思います。

〈朝来市〉

高校生議会では、事前の準備に4カ月位時間をかけて行われている。議員と執行部のすり合わせはせず、事実確認のみにして議員の思いを言っているとの事です。答弁がはっきり言えない、やりましようとは言えないジレンマがあり難しさを感じます。しかし、高校生の思いを一般質問や常任委員会に繋げることは、若き世代の意見の扉を開け、政治参加を促し、政治に関心を向ける意味では有効だと思います。学校側から毎年継続してほしいとの要望があることは素晴らしいと思います。井原市議会では子ども議会を執行部の主導のもと、行っているが、市議会が受け持ち高校生議会に挑戦することも必要だと思う。

3市議会で共通しているのは、失敗を好機と考え矛先を各所に向け挑戦して

いるところだと思う。また高校生を含め政治に若者世代を取り込もうとしていることが大変参考になった。

(所感)

委員 宮地俊則

〈西脇市〉

西脇市議会の「課題懇談会」は、当初の議会報告会（議会と語ろう会）で市民から広く意見を聞くという目的から始まり、より具体的な課題や明確な理由がある団体等の声を聴くために始めた経緯がある。ただ、それまでの議会報告会を年間40会場以上で行ってこられた実績には目を見張るものがありました。

この議会報告会の軌道修正を行ったのは報告会も回を重ねるにつれ、毎回の出席者がほぼ同じであったり、内容も似たものが何度も出てきたりとマンネリ化し、行き詰まった感が出てきたことが理由のようでありました。これは次の南丹市も朝来市も同様で、井原市議会も同じような状況にあります。

そうしたことから「課題懇談会」への移行は自然な流れのように感じました。

何より、テーマが事前に明確となっていることにより、絞り込まれた意見交換が行われている点が素晴らしく、参加者も明確な目的意識を持って参加することでその成果は大きいものでありました。実際、ここ10年ほどで30回近く開催されており、その対象団体やテーマも市政に直結するような内容が多く見受けられました。

この方法は井原市議会としても大いに参考にしなければならないものだと強く感じた視察でありました。

〈南丹市〉

南丹市議会の「出前でおしゃべり青空議会」は当初の議会報告会も出席者の減少などの反省から、議会側から積極的に市民の側に出向いて行こう、議会としての姿勢を示していこうとの考えからスタートしており、大いに評価できるものと思います。市等が開催するイベントに絞り、敢えてテーマを設定せず、議会を身近に感じてもらうきっかけづくりの場とした点や比較的準備が簡単な点も議会広報の一方法としては参考になるものである。

議会主催でありながら、議員個々が対応することに「回答などの発言はどこまで許されるのか？」などが気になる点ではありましたが、各議員が自覚をもって対応しているようであり我々の杞憂でありました。

まだ4回の開催ということで子育て世代を呼び込むための「ぬり絵・折り紙コーナー」を設置するなど試行錯誤のようではありますが、その他にも学生との意見交換会やそれを発展させたテーマを3つに絞った「なんたん未来会議」など若者を対象とした企画を次々と実施しており、その「何でも とにかくやっ

てみよう！」といったフットワークの良さに見習うものが感じられた視察でありました。

〈朝来市〉

この「高校生議会」は朝来市議会100回記念として開催されたとの事前資料から私たち委員会メンバーは、皆一様にイベント的な行事だったんだと思い込んでいたようです。また、議員が答弁をするとのことで明快な答弁はおおよそ無理だろうとも感じていました。しかし、それは大きな間違いでした。

始めたきっかけは記念行事ではあったものの、準備を進める過程で「何のために高校生議会をするのか？」という目的や意義を突き詰めて議論し、「若き世代の声を受け止めることができるのは議会だけである」という共通認識を導き出した議会の真剣さがひしひしと伝わってきました。それは4か月もの期間を費やし、高校側との日程調整から事前説明や学習会など綿密な準備をしていることから感じられました。

また、特筆すべきは高校生の質問通告書への答弁議員の割り振りが決まると、担当議員は自ら事実関係を調査し答弁書の作成を行うなどそのすべてが任せられ、内容について議会内での確認や調整もしていないとのことでした。ただ、テーマなどから答弁する「枠」を外れないことを申し合わせており、「答弁議員のパフォーマンスにだけはなってはならない」との自覚が徹底されていることから「記念行事」だったものが毎年継続される「一大行事」となった大きな要因だと感じました。

通常の定例会においても一般質問は詳細な通告書を提出することにより、原則ヒアリングは行っていない、との説明に朝来市議会の常に真剣勝負でやられている熱意が感じられた貴重な視察でした。